まちづくり交付金
交付団体の活動を紹介します

町では、自由な発想の下で住民自らが考え、自発的に地域の活性化に取り組む団体及び自治組織等に対して、その活動を支援する「岩美町まちづくり交付金」の制度を平成16年度から設けています。

今回は、季節の話題や地域の人々の素顔・身近な行事や地元の歴史・文化などを掘り起こして紹介する“みんなで作る新聞づくり”を通して地区民の心をつなぎ、地域が元気になる活動をしている陸上自治会の活動を紹介します。

地域づくりは心のつながりから

『＝心をつなぐ「くがみ新聞」づくり：陸上自治会＝』

村づくりの基盤として

陸上自治会は少子高齢化が進んでいく中で、少しでも住みよい地区にと、今年度より、その基盤となる、右のような自治会だより「くがみ新聞」（A４版２面）を３月より毎月発行してきました。

単なる「連絡紙」ではなく、季節の話題や地元の歴史・文化などを掘り起こして、<読んで楽しめる紙面>をめざし、また、取材や編集活動を通じて人と人の交流も図る事業にと取組んでいます。

7号までに43人の声コエこえを掲載

「ひと」の訪問取材

ひとイキイキ

これまでの企画では、役員会の内容の紹介、消防団との自治会の連携強化、陸上のひと、ふれあいサロンの一日体験記、東浜駅設置の由来、墓踊りの起源、民宿の今と昔などを企画しました。その中で、「村をつくるのは人」として、多くの人の声を載せたいと努力し、７号までに43人となりました。

この紙面はＤＴＰソフト<パーソナル編集長>で作ったものです。縦書・横書、書体、カコミ、写真等が自由自在に簡単に編集できます。
【問い合わせ　72-1406　小西】

特別号　自治会だより「くがみ新聞」　2009年１０月1日

くがみ新聞

広報 **いわみ** 版

特別号
平成２１年
１０月1日
発行
陸上自治会

だんだんと地区が元気に

えーですなーと地区民
交付金事業で軌道に乗る

新聞発行７カ月

陸上自治会新聞を発行し始めて早７カ月がたちました。その時々の取り組みや、地区の抱える問題を、地区民全体で共有できつつあると実感しています。

「防災」のことで一歩前に進んだり、各団体と住民との結びつきが強まったり、村の先達や今いる「ひと」を見直したりと、地区民からも「えーですなー」と期待されているだけに、町の交付金事業に認定されて本当によかったです。

８月２日クリーン作戦のあと、一斉に消火施設の点検をする地区民

陸上のひと

くがみ新聞を楽しみに待つ高２生
河口千夏さん

おばあちゃんが「孫がくがみ新聞を楽しみにしていると」言ってましたが。「本当です。１号から読んでいます」。どこがいい。「知っている人が出ていて嬉しいし、ＮＨＫの生中継のことではトランペッターとして県大会で銀賞。村祭りでは、子供たちに踊りの稽古をつけ「私も踊ります」と元気一杯。（訪問　中村）

みると うれしい

高校の吹奏楽部

交付金で購入したパソコン、プリンターと「くがみ新聞」原版

あゆむ

「…三歩進んで二歩下がる」、水前寺清子さんの歌の一節を引いて、新自治会長は一歩一歩の村づくりの決意を説いた。▼一歩踏み出した時に「交付金事業」に認定された。いきなり三歩も進んだようだが、この後、四歩下がる事があるかも。▼それでも一歩にはこだわりたい。地区民と共に継続して行く中で「心をつなぎ、支えあう地区になれる」と、信じて。

○月の役員会で話し合ったこと（○日）

例えば
- ◆防災サイレン故障の件
- ◆消火栓・ホース点検の件
- ◆転居してきた甲田さん自治会員に
- ◆ケーブルテレビの件
- ◆墓踊り保存会の件

と、項目だけでも載せることで、地区民全体が共有できる一歩に。